

第6回 糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議） 次第

令和2年9月1日(火)18時30分
駅北広場キターレ

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 駅北まちづくり戦略（案）について . . . 資料1

(2) 目指すまちの姿について . . . 資料2

4 連絡事項等

5 閉 会

糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議委員）

R2. 4. 1 現在

※50音順 敬称略

No.	団体名等	役職等	氏名	備考	部会
1	日本料理鶴来家	専務取締役	青木 資甫子	市民会議委員、H30 スクール参加者	地産地消
2	株式会社アオ	代表取締役	五十嵐 昌樹	H31 リノベーションスクールサブユニットマスター	高齢者元気
3	有限会社池原印刷所	代表取締役	池原 寿子	個店の魅力アップ女性の会副会長	高齢者元気
4	花重		磯貝 正子	駅北復興まちづくり計画検討委員会前委員、個店の魅力アップ女性の会	高齢者元気
5	株式会社カネタ建設	代表取締役	猪又 直登	H31 リノベーションスクールサブユニットマスター、市民会議委員	高齢者元気
6	ペンション・クルー	代表	岩崎 智	H31 未来のチカラ提言ワークショップ参加者	地産地消
7	フリーランス（翻訳）		エマ パーカー		子育て
8	有限会社 二葉デンキ商会	代表取締役	加藤 康太郎	R2 リノベーションスクールローカルユニットマスター、H31 未来のチカラ提言ワークショップ参加者	子育て
9	EKIKITA WORKS	幹事長	木島 嵩善	市民会議委員	子育て
10	B A S E 9 6 8	取締役	小出 薫	市民会議委員、H30 スクール参加者	高齢者元気
11	加賀の井酒造株式会社	第18代蔵元	小林 大祐	市民会議委員	地産地消
12	おもちゃや木のこ	代表	齊藤 里沙	市民会議委員	子育て
13	株式会社お米の配達人	代表	園田 岳彦		地産地消
14	まちづくりらぼ	副代表	野村 祐太	市民会議委員	子育て・地産地消
15	リノベーションスクール@いといがわ	企画者	藤岡 あかね	H30 スクール参加者	地産地消
16	EKIKITA WORKS	代表	本間 寛道	市民会議委員	子育て
17	リノベーションスクール@いといがわ	企画者	松木 美沙子	市民会議委員、H30 スクール参加者	子育て
18	室川印刷		室川 亜紀	市民会議委員、個店の魅力アップ女性の会前アドバイザー	高齢者元気
19	株式会社 清耕園ファーム		横井 藍		地産地消
20	駅北まちづくり会議 実践会議	座長	西村 浩	外部アドバイザー	



つながり、育み、豊かに暮らす
—めざせ、まちなか大家族—

糸魚川市 駅北まちづくり戦略（案）

目次

	1 駅北まちづくり戦略について	1-3
	① 駅北まちづくり戦略とは	1
	② 戦略の位置づけ	2
	③ 戦略の対象区域	3
	④ 駅北まちづくりと周辺地区との連携	3
	2 駅北地区の現状と課題	5-13
	① 駅北地区の歴史	5
	② 駅北地区の現状	6
	③ 駅北地区の課題	13
	3 駅北地区が目指す姿	15-28
	① 駅北地区が目指す姿	15
	② 取組の方向と活動	16
	1) まちぐるみで子どもを見守り、育てよう	17
	2) 糸魚川にあるもので、豊かに暮らそう	21
	3) いつまでも、ぴんぴんにっこり暮らそう	26
	4) 取組の連携とその他の活動とのつながり	29
	4 駅北地区が目指す暮らしの風景	30
	5 目指す姿の実現に向けて	31-38
	① まちづくりの展開	31
	② 公民連携とリノベーションまちづくり	32
	③ まちなか大家族の実現に向けて	36
	④ 推進体制	38



1 駅北まちづくり戦略について

1 駅北まちづくり戦略とは

平成 28 年 12 月 22 日に発生した糸魚川市駅北大火により、中心市街地の住宅や店舗をはじめ、かつて宿場町として栄えた歴史を物語る雁木のある街並みなど、多くの文化的資源が失われました。

大火後、駅北地区では、暮らしや事業の一日も早い再建を目指し、「カタイ絆でよみがえる 笑顔の街道 糸魚川」を合言葉に、「糸魚川市駅北復興まちづくり計画（平成 29 年 8 月策定）」で示した復興まちづくりの考え方や基本方針に沿って、まちの再生に取り組んでいます。

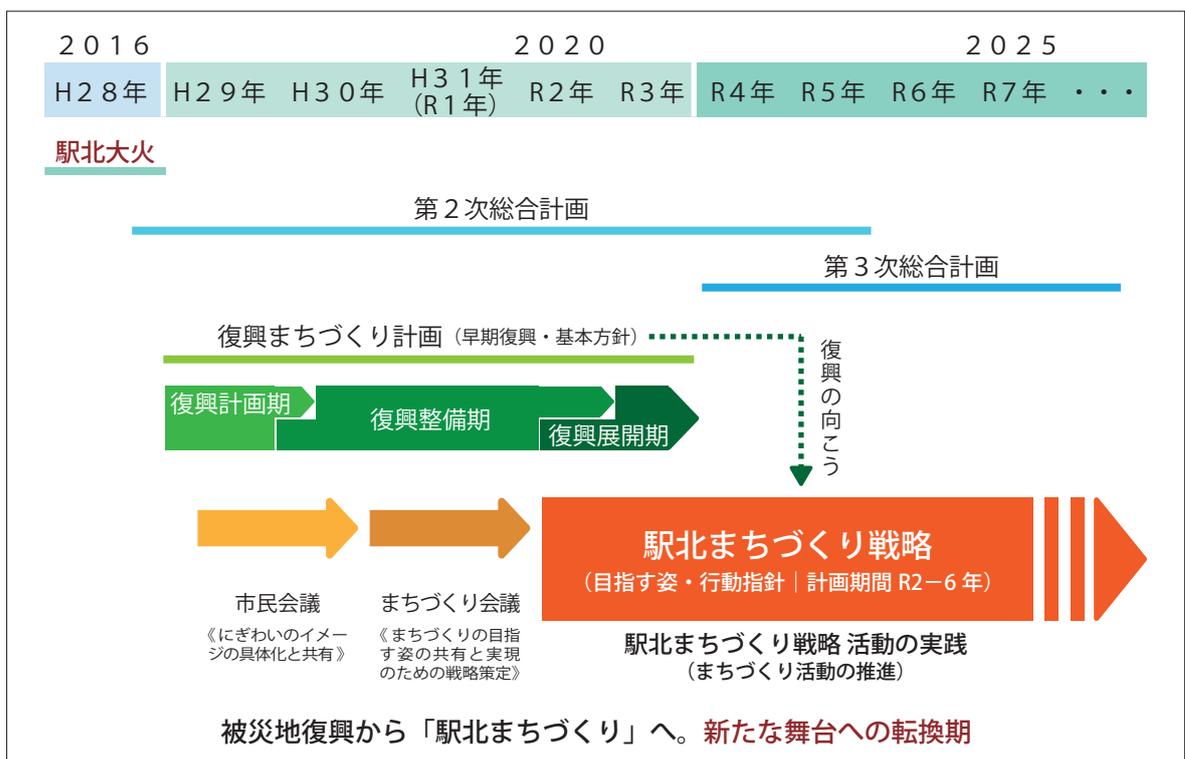
大火から 4 年を迎えようとする現在、復興住宅や市民公園、駅北広場「キターレ」などこれからの復興まちづくりを支える都市基盤の多くが完成しています。

豊かな暮らし方や働き方を実現していくためには、駅北地区で暮らす方々や事業を営む方々、そして市民一人ひとりが「できることから始める」ことで、「民間主導・行政併走」のまちづくりへと転換していくことが重要です。

駅北地区の皆さんや事業を営む方々、そして市民ひとりひとりが『できることから始める』を実践することで求める豊かな暮らし方、働き方を実現するため、『民間主導・行政併走』のまちづくりへと転換していきます。

駅北地区では大火以前から、高齢化や人口減少の影響で主体的に活動を担う人材不足などの課題を抱えています。新しく生まれた公共的な空間や被災を免れた周辺地域も含め、歴史や文化も含めた今ある地域資源を生かしていく『リノベーションまちづくり』の考え方に基づいて活動を担う人材の育成を目指していきます。

駅北まちづくり戦略は、復興の向こうを見据えたまちづくりに向けて、駅北地区の地域資源をあらためて見つめなおし、人と人とのつながり、人とまちとのつながりを再生していくための未来像を描き、その実現のための実践活動を示したものです。

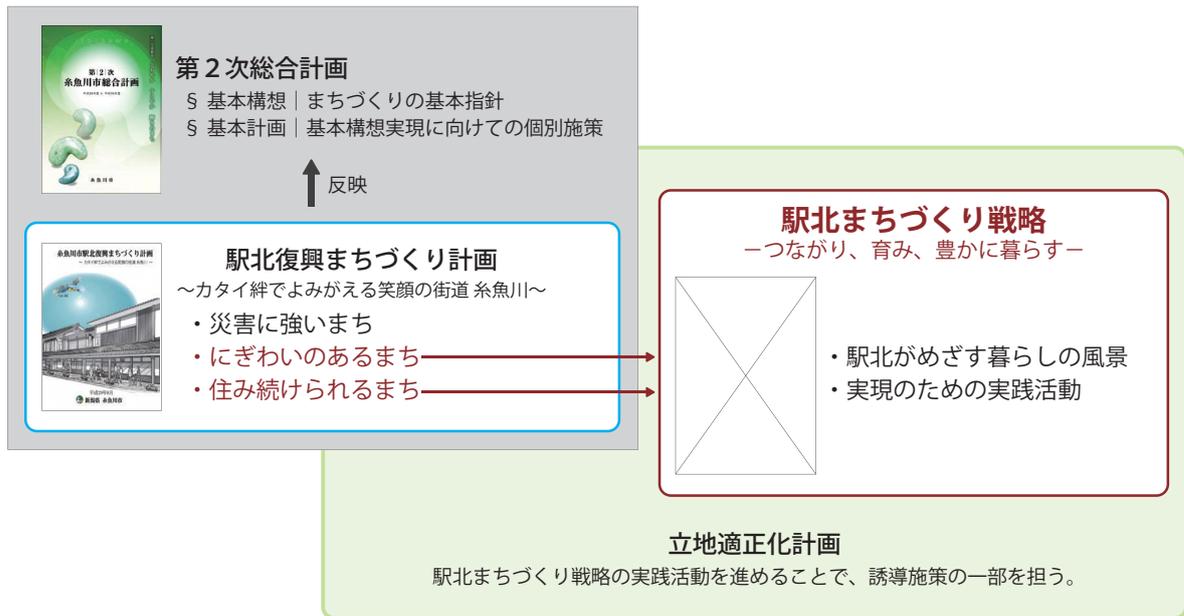




2 戦略の位置づけ

駅北まちづくり戦略は、糸魚川市駅北復興まちづくり計画における「にぎわいのあるまち」「住み続けられるまち」の実現に向けた方向性と実践活動を示すものです。糸魚川市立地適正化計画における中長期的な都市機能や居住の誘導に資するとともに、各分野の計画とも連携しています。

なお、糸魚川市駅北復興まちづくり計画は、本市の最上位計画である第2次糸魚川市総合計画において、駅北大火復興特別編として反映されます。





2 駅北地区の現状と課題

1 駅北地区の歴史

大火のあった駅北地区は古くから北国街道（加賀街道）と松本街道の宿場町として栄え、江戸時代には北前船の寄港する港町、また親藩である糸魚川藩1万石の陣屋町としての面もあわせ、持っていました。

松本街道は別名「塩の道」とも呼ばれ、古くから、内陸の信濃（長野）へ塩や海産物等を運ぶ重要な道でした。現在も鉄道では北陸新幹線、えちごトキめき鉄道、JR大糸線が、道路では北陸自動車道、国道8号と国道148号が交差する交通の結節点です。

街道沿いの宿場町が原型となった商店街には、木造2階建て平入り（道路に対して桁が平行）の建物が連なり、雪国に特徴的な「雁木」が連なる町並みが形成されました。旧加賀街道の一部が現在の「本町通り」、旧松本街道の一部が現在の「白馬通り」です。

大正元年の糸魚川駅設置、戦後の高度経済成長期を経て、店舗等が集積し、駅北地区は市の顔として中心的機能を担ってきました。

■ 明治20(1887)年の糸魚川町

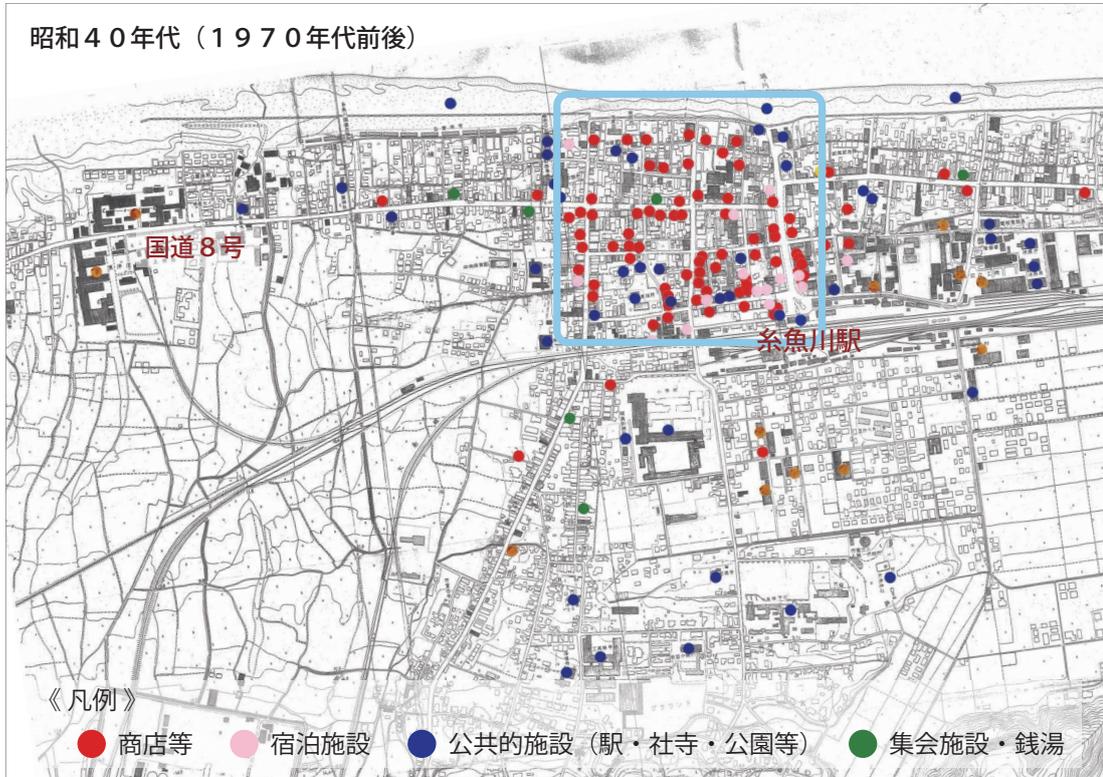


明治20年7月1日 西頸城郡役所発行「新潟県越後国西頸城郡実測図」を原図とし、昭和27年に糸魚川小学校教諭が作成した図

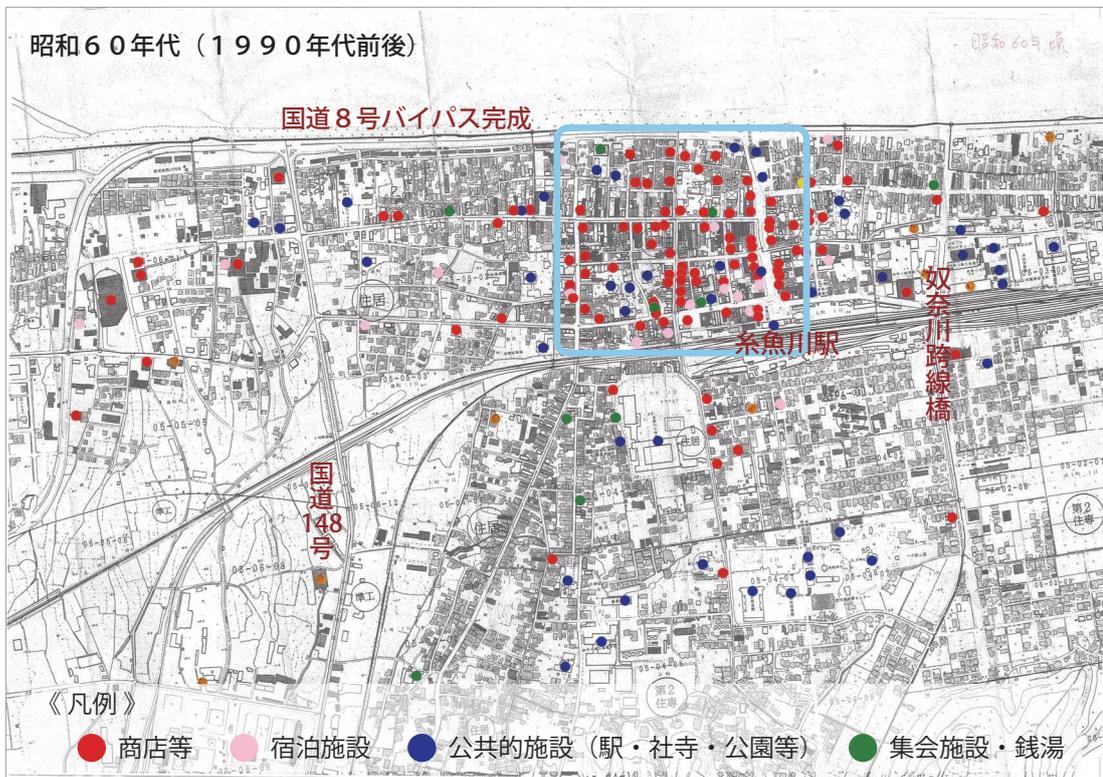


2 駅北地区の現状

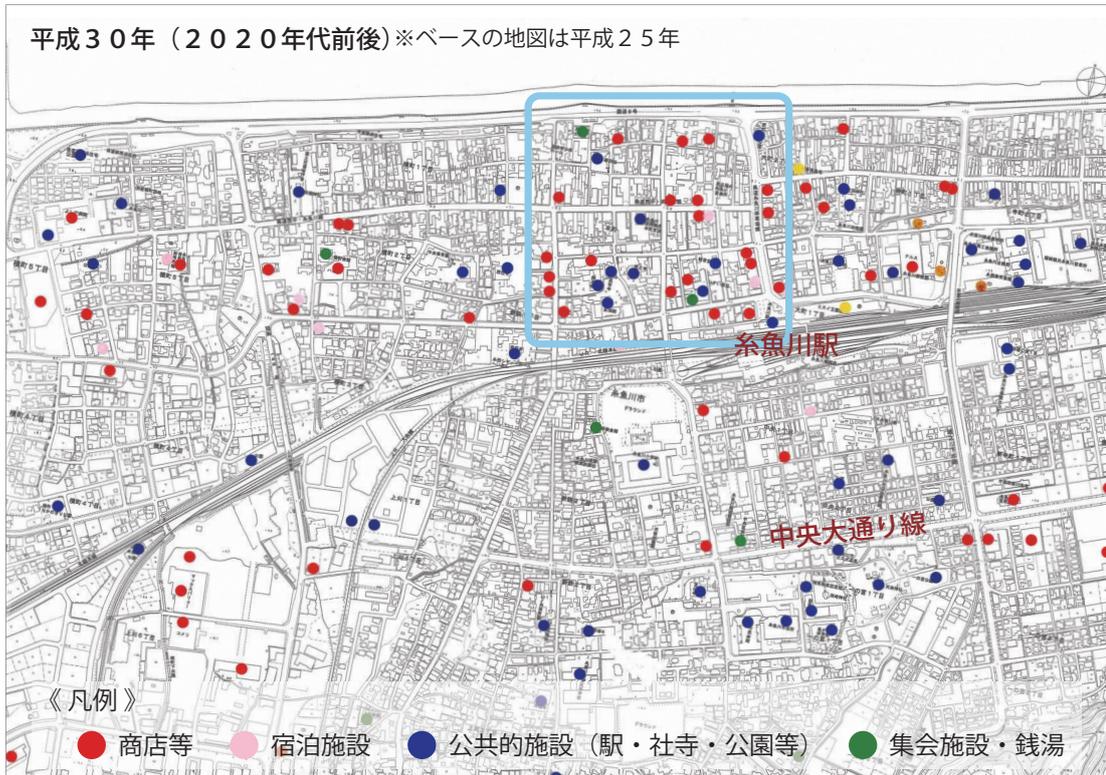
【都市機能】



高度成長期を経て駅北地区に店舗等が集積



国道148号改修、国道8号系魚川バイパス、市道奴奈川線跨線橋開通。
車社会が進むとともに郊外の住宅地化が進む。



郊外の道路交通網（中央大通り線等）の整備が進み、商店等の郊外化や住宅地の広がりもさらに進む。

昭和40年代から60年代にかけて全国の都市が発展拡大するなか、本市においても、駅北地区から郊外に向かって都市が拡大してきた様子がわかります。

宅地の拡大に伴い、市民の暮らしを支える商店や公共的施設、集会施設等も広範囲に点在するようになり、駅北地区に集積していた施設の立地状況は約50年の間に一変しています。

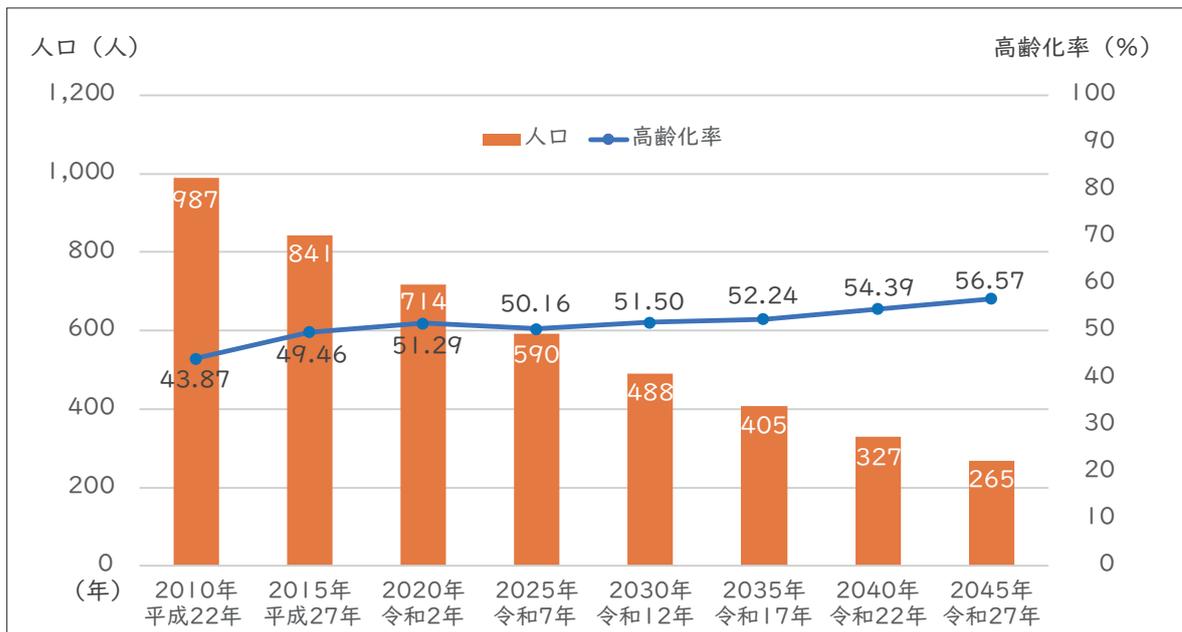
また、平成28年の駅北大火で、焼失した商店等の約4割が被災地内で再建しましたが、大火以前から駅北地区には空き家や空き店舗、空きビルが目立つ状況にありました。



【人口の推移】

全国的に人口減少、少子高齢化が進行するなか、市の玄関口であり中心的機能を担ってきた駅北地区は、鉄道、バスなどの公共交通等の利便性が高く、社会基盤も整備されており、居住や商業等の立地には適した環境にあります。しかしながら、駅北大火による被災前においても65歳以上の高齢者の割合が約50%に達するなど、若者や子育て世代が少ない状況です。この傾向が続くと、地域コミュニティの活動低下、身近な店舗の縮小などが懸念されます。

■ 駅北地区（大町・本町・新鉄1丁目）の人口推移と予測



資料 | 「国勢調査(総務省 統計局)」平成22年、平成27年をもとに
コーホート変化率法により作成

■ 駅北地区（大町・本町・新鉄1丁目）の人口構成

	人口	年少人口	生産年齢人口	高齢人口	高齢化率
大町	480	25	205	250	52.08%
本町	278	25	130	123	44.24%
新鉄1丁目	83	3	37	43	51.81%
計	841	53	372	416	49.46%
(参考)市総計	44,104	4,816	22,942	16,346	37.06%

資料 | 平成27年(2015)国政調査(総務省 統計局)をもとに作成

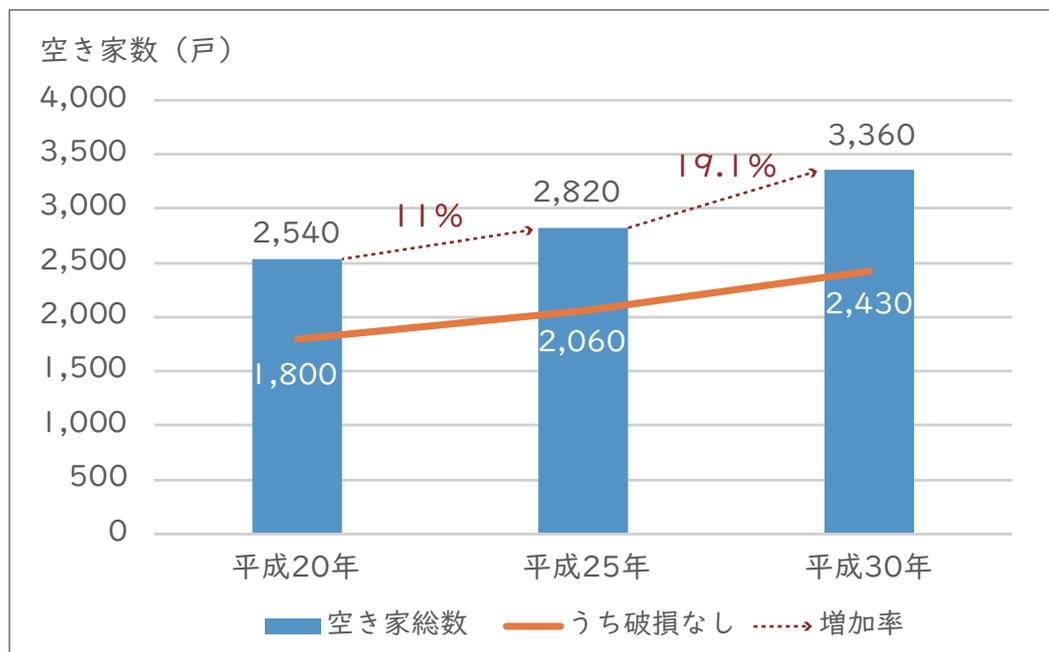


【空き家の増加】

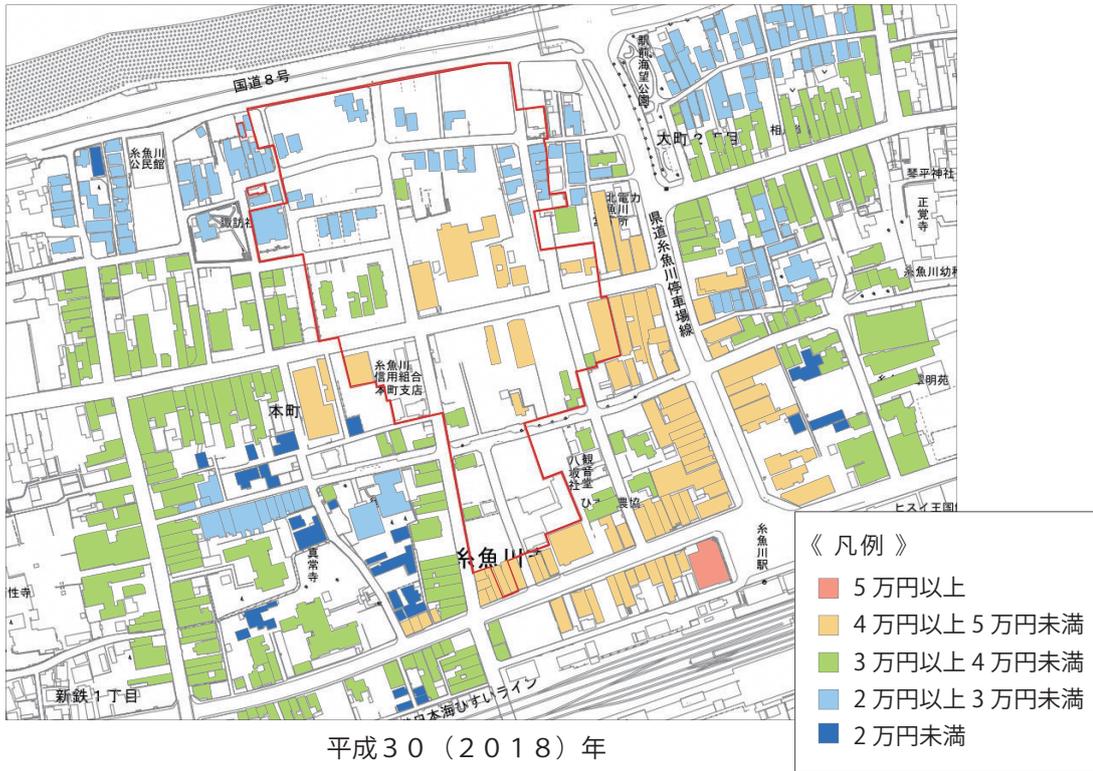
本市の空き家数は年々増加しており、平成20年からの10年間で820戸増え、増加率も約11%から約19%にあがっています。また、平成27年に市が実施した「空き家実態調査」では、糸魚川地域の用途地域内にある空き家（106戸）の約6割（61戸）が糸魚川駅から半径800mの範囲内に集中しています。

廃業や郊外への店舗出店などにより、空き店舗も増加しており、空洞化による商店街を中心とした駅北地区全体の魅力や活力の低下が課題となっています。

■ 市内全域の空き家の推移

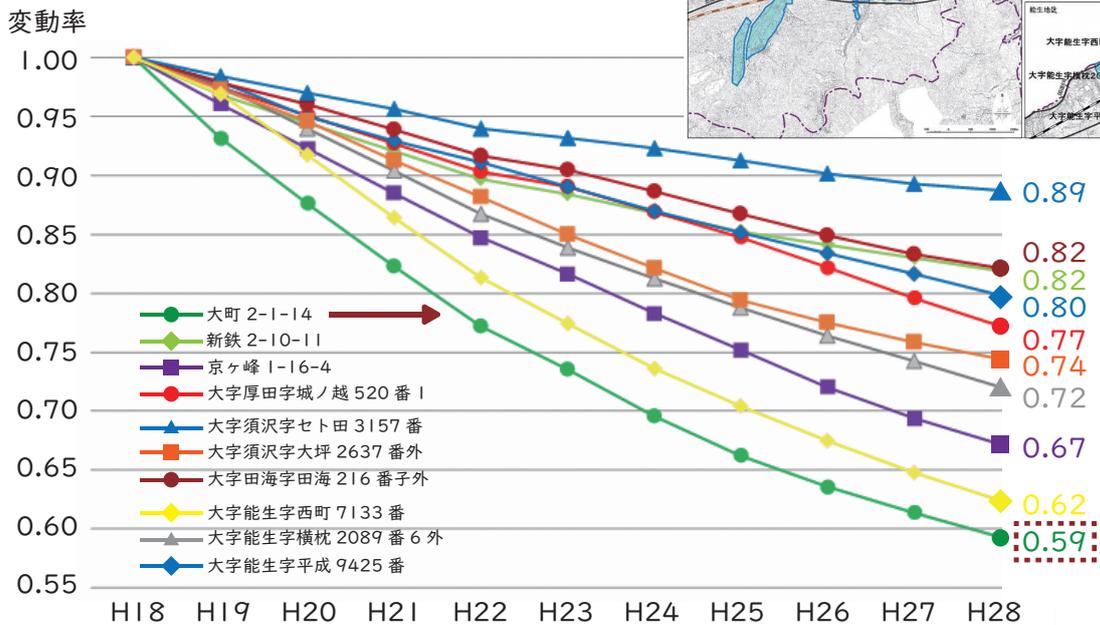


資料 | 住宅・土地統計調査(総務省 統計局)をもとに作成



■ 地点別の公示地価の推移

資料 | 国土数値情報 (国土交通省) をもとに作成

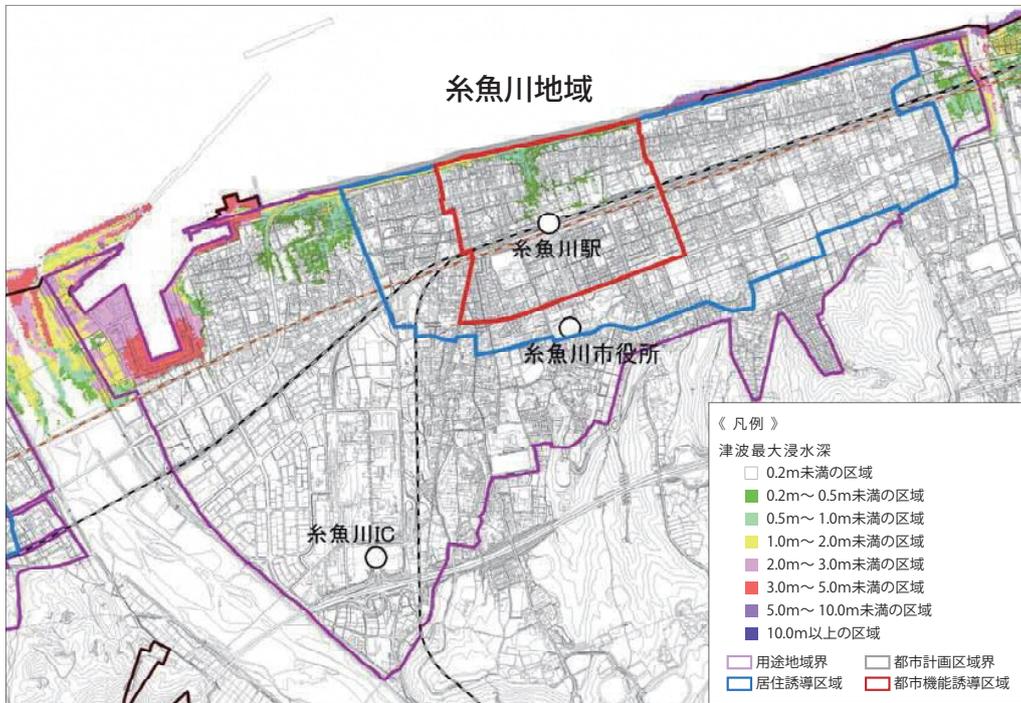


地価は年々下落しており、駅北地区内は市内他地区よりも大きく落ち込んでいます。中心市街地に対するニーズの低下が顕著になっていることがわかります。



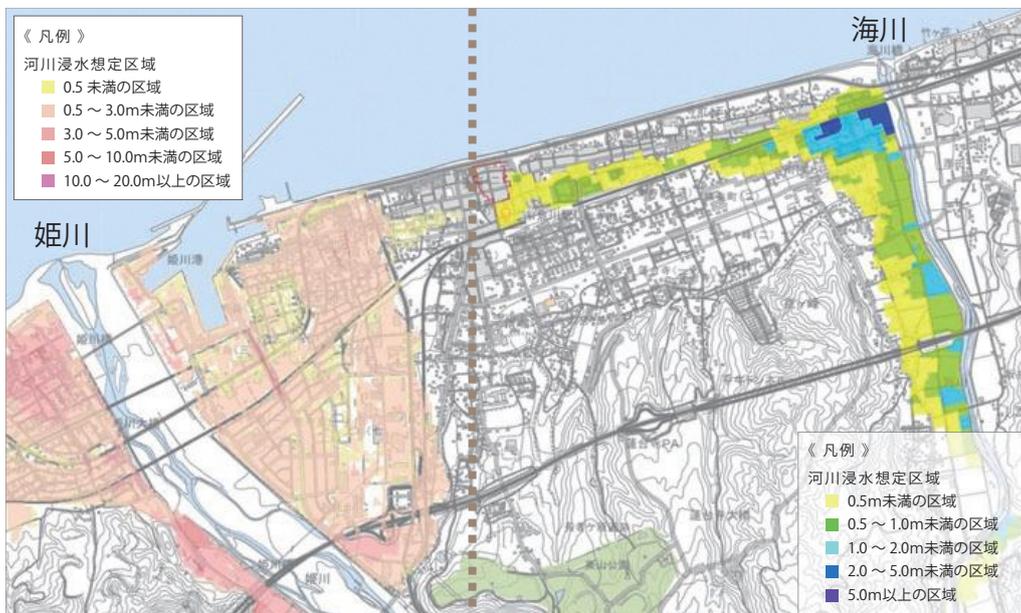
【洪水・津波被害予測】

■ 津波浸水想定区域



資料 | ハザードマップ(糸魚川市)、地形図(国土地理院)をもとに作成

■ 津波浸水想定区域 [姫川・海川]



資料 | ハザードマップ(糸魚川市)、地形図(国土地理院)をもとに作成

近年、全国各地で大水害が発生しており、今後も気候変動による降雨量の増加や日本海側での地震による津波などが懸念されています。

駅北地区は、一部が津波・河川の浸水想定区域ではあるものの、その想定する深さはいずれも低く、水害には強い地区であると言えます。



3 駅北地区の課題

駅北地区の高齢化率は、市全体の平均値を上回り、人口構成が偏っている現状が見受けられます。このような状況が続くと地域コミュニティ等の維持困難（運営費、役員人材の不足等）や身近な店舗等の縮小等、様々な影響が発生すると考えられます。

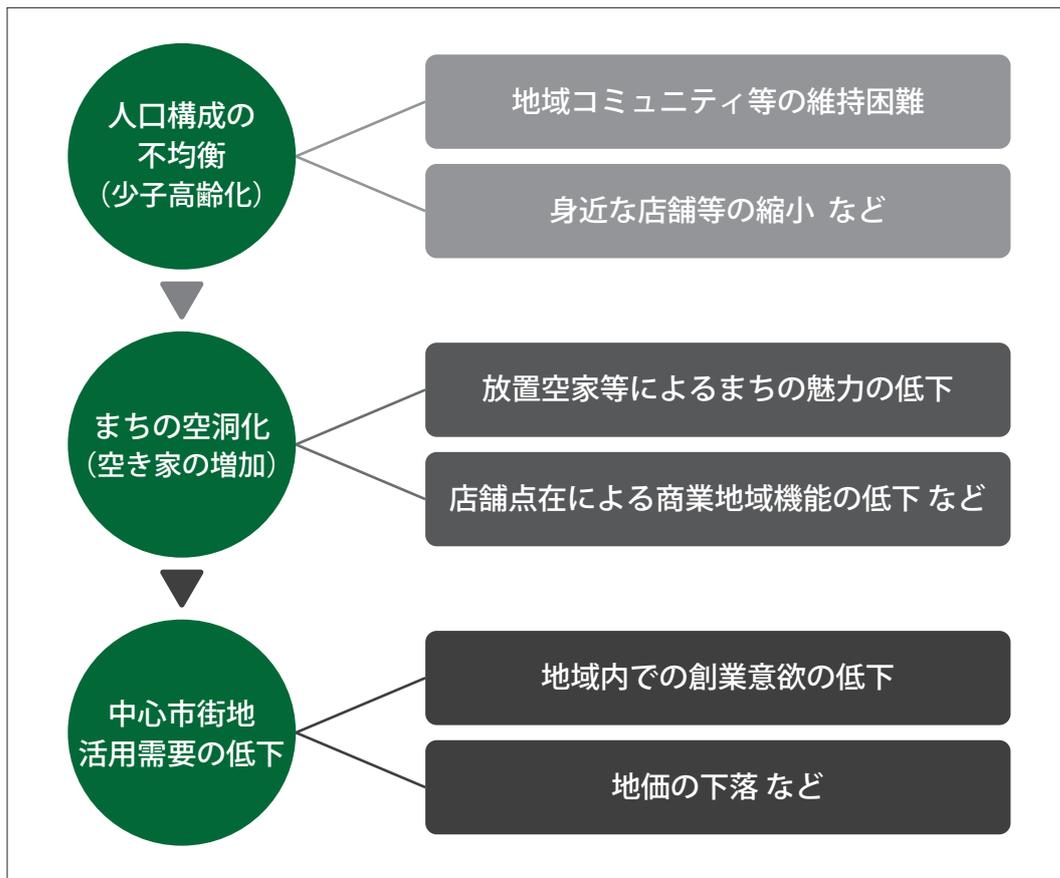
また、市内の空き家等は増加しており、このまま増加していくと、まちの空洞化が進み、まちの魅力と活力を低下させる要因となります。

このような現状を背景に駅北地区の活用需要の低下が顕著になっており、地価は市内で最も高い減少率になっています。

しかし一方で、駅北地区は本市の玄関口として新幹線をはじめとする公共交通の利便性が高く、都市機能も充実しているうえに土砂災害や水害の危険性も低い利点があります。

これらのことから、人口構成の不均衡、中心市街地に対する活用需要の低下等に柔軟に対応し、駅北地区の強みを生かした持続的な取組を進めることが必要です。

■ 課題の関係性





3 駅北地区が目指す姿

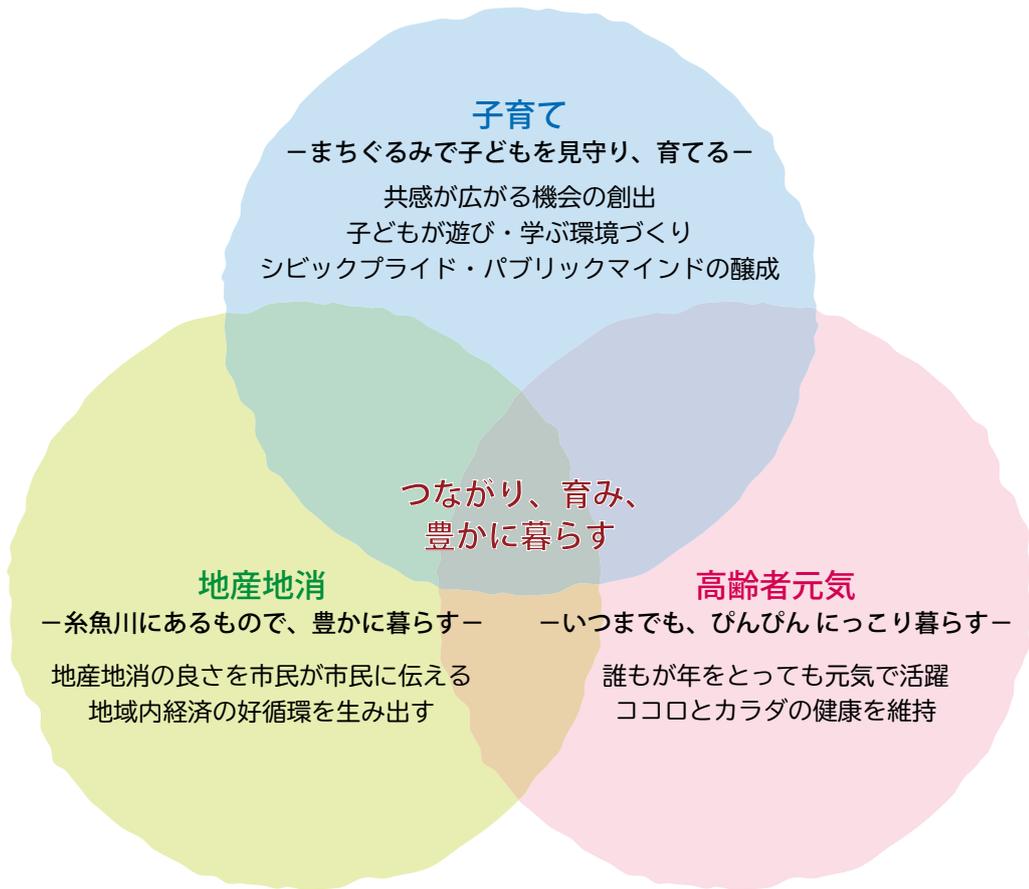
1 駅北地区が目指す姿（案）

つながり、育み、豊かに暮らす
— めざせ、まちなか大家族 —

人と人、人とまちがつながり、そのつながりを育むことで、豊かに暮らす市民（大家族）にとって、家のように居心地の良い特別な場所

想いを未来へつなげ、まちなか大家族を目指して、3つのテーマ（※子育て、地産地消、高齢者元気）に沿った活動を進めていきます。

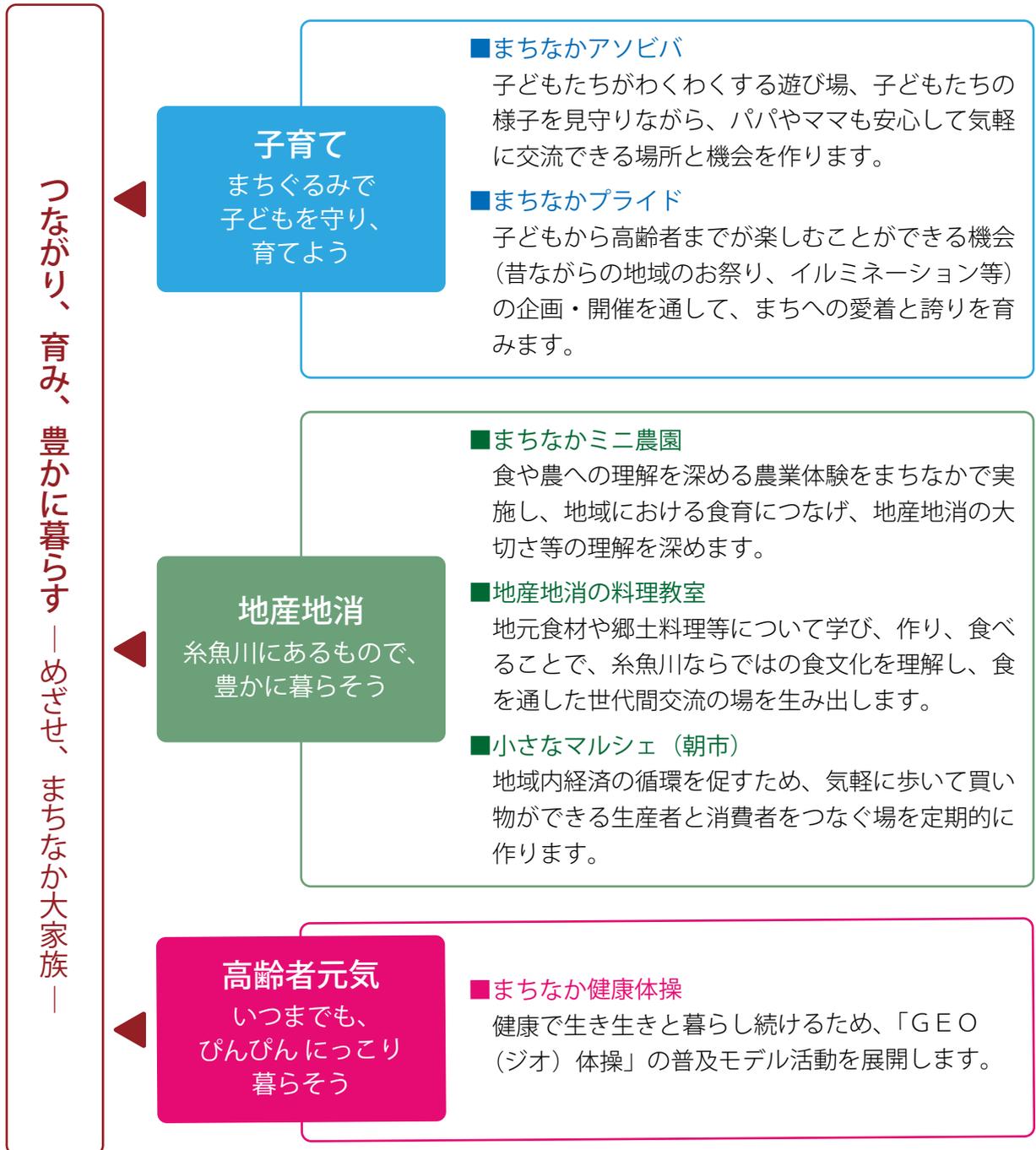
※第1回実践会議時に委員意見をつむいで3つのテーマを設定したものの。





2 取組の方向と活動

目指す姿に向け、3つのテーマごとに、その取組の方向と活動を定めて進めていきます。





1) まちぐるみで子どもを見守り、育てよう

核家族化や都市化の進行等によって、地域における助け合いが難しい環境にあります。かつては家族や近隣から得られていた知恵や支援が得られにくいことで、育児に孤独を感じている子育て世代も少なくはありません。

駅北地区には商店街もあり、まちの大人たちも子どもを見守りやすい環境があります。子育てに対する不安を低減し、地域で子どもを見守る環境や関係性を取り戻し、安心して子どもを育て、やがてまちや暮らしを支える大人の背中を見て育った子どもたちが、まちへの愛着と誇りを感じられるような環境づくりを進めます。

子どもの成長に応じた「遊び」と「学び」の場と活動を展開

共感が広がる機会の創出
子育ての孤独感を解消

子どもが遊び・学ぶ環境
子どもがわくわくする場づくり

シビックプライド・
パブリックマインドの醸成
次代のまちを担う子どもの自立心・
自律心を育む

※「シビックプライド」「都市に対する市民の誇り」という概念で使われることが多い。「郷土愛」といった言葉と似ているが、単に地域に対する愛着を示すだけではなく、「シビック（市民の／都市の）」には、権利と義務を持って活動する主体としての市民性という意味があり、シビックプライドは、自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心を指す。（『シビックプライドー都市のコミュニケーションをデザインする』 宣伝会議刊）

※「パブリックマインド」 皆の役に立とうとする公共の精神



ACTION
1



まちなかアソビバ

子どもたちがわくわくする遊び場、子どもたちの様子を見守りながら、パパやママも安心して気軽に交流できる場所と機会を作ります。

子どもは、遊びを通してたくさんのことを学びます。子どもたちの「やりたい」「こうしたらもっと楽しい」という好奇心を引き出しながら、協調性やコミュニケーション力を育み、パパ、ママも子育ての話ができる遊び場づくりを目指します。

photo

photo

- おもちゃ木のこ：早川地区を中心に子どもの遊び場等をつくり、パパママの交流の機会を広げている団体
- BASE968：人材育成、ものづくり、交流創出、防災教育の4つの事業に取り組むまちづくり会社

おもちゃ木のこ

BASE968



- ★ 対象 | 幼児・未就学児と子育て中のパパやママ、おじいちゃん・おばあちゃん
- ★ 内容 | まちなかで、ピクニック気分学ぶ「エキキタピクニック」
まちなかのお店散策やはじめてのおつかい体験
子育て中のパパやママもほっとできる場づくり など
- ★ 目標 | 子どもたちが夢中になるあそび体験ができる環境づくり
- ★ 展開 | 地域ごとの風土や文化など、個性のあるあそび場が各所にできる



ACTION
2

まちなかプライド

子どもから高齢者までが楽しむことができる機会（昔ながらの地域のお祭り、イルミネーション等）の企画・開催を通して、まちへの愛着と誇りを育みます。

糸魚川では、昔から各地域で生業に携わりながら、地域ごとに独自の文化や風土を作り、受け継いできました。「お祭り」には、代々地域の子どものから高齢者まで、皆が集い、共に地域の文化を伝聞するなかで、まちぐるみで子どもたちの成長を見届ける、という一面もありました。現在では少子化・高齢化の進行によってそうした機会も減少し、世代間の交流も少なくなりつつあります。

かつてのお祭りのような、地域の皆が集まる機会をつくるとともに、大人から子どもへ、伝えたい、残したい文化の伝聞や、地域の絆を深める場づくりを目指します。



EKIKITA WORKS

●EKIKITA WORKS: 駅北大火をきっかけに活動をしている地元の若者が集まった団体。



- ★ 対象 | 地域住民
- ★ 内容 | お祭りや地域の催し・イルミネーションなど
- ★ 目標 | 地域の子どもの様々な体験活動を通じた多世代交流
子どもたちの記憶に残る体験の機会によるまちへの愛着と誇りの育成
- ★ 展開 | 地域の多世代が集まる、特色ある催し等の増加



2) 糸魚川にあるもので、豊かに暮らそう

糸魚川には豊かな自然が育んだ地域資源が豊富にありますが、日々の暮らしに溶け込んだそれらの価値を見つめなおす機会は多くはありません。「食」にテーマを絞り、生産者と消費者の距離を縮め、糸魚川にあるもの、つくられたものの価値を意識する輪を広げるために、『顔が見え、話ができる』環境で地域の地場産品を販売し購入する機会を作ります。

農業等関連産業の距離が近くなることで、心理的な距離も近くなり、市民の地元農産等への愛着や安心感も深まります。

駅北地区から地産地消を習慣化し、地域内で経済の循環を生み出します。

地産地消の良さ（品質・安心）を市民が市民に伝え、地域内経済の好循環を生み出す

【活動の広がり方】



※「提供者」
材料を仕入れて加工、販売する小売業、飲食店を想定

《 凡例 》

■ 糸魚川にあるもので豊かに暮らす

■ 地域で経済を循環させる

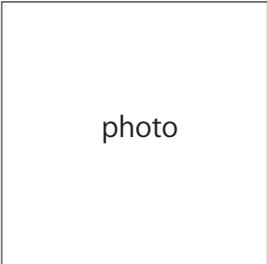


ACTION
1

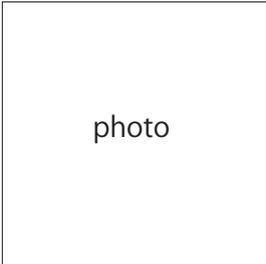


まちなかミニ農園

まちなかにいても、市内の生産地をもっと身近に感じてもらうとともに、地元の農産物を地元で消費することを体験する場を作ります。
食や農への理解を深める体験がまちなかでできることで、地元で生産される農作物に興味をもたせます。また、新鮮な食材のおいしさを知ること、その価値を育み、意識して利用する（習慣化）の輪を広げる地産地消の大切さを理解することを目指します。



地産地消部会有志



生産者有志



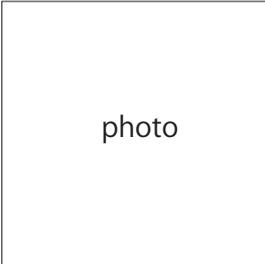
- ★ 対象 | 地域住民
- ★ 内容 | コンテナを使った野菜づくり「ハコニワ」を設置し、まちなかで農業体験ができる小さな農園をつくる。収穫祭なども実施
遊休不動産（空地）を利活用しながら、生産者とのつながりづくり
- ★ 目標 | 生産地との距離を近くに感じる共感者の増加
生産地とまちなかの人と人との交流づくり
- ★ 展開 | 糸魚川産食材の積極的な消費や、生産地を訪れるアグリツーリズムの拡大



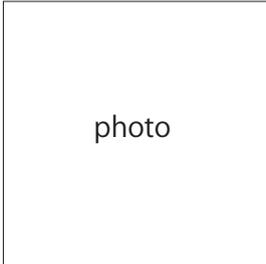
ACTION
2

地産地消の料理教室

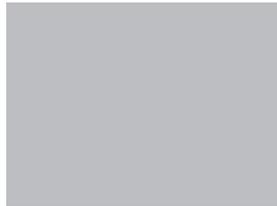
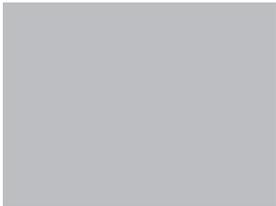
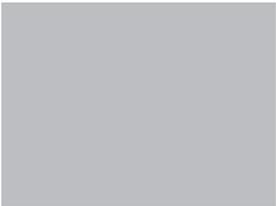
四季を感じる糸魚川産の食材をふんだんに使った料理の提供やレシピの紹介、料理教室を開催します。
地元の食材や特産品、郷土料理について学び、作り、食べることで、昔からある糸魚川ならではの食文化を理解し食を通した世代間交流の場の創出を目指します。



生産者有志



キッチン BASE968



- ★ 対象 | 地元食材を使った料理に興味のある方
- ★ 内容 | 季節の地元産食材を生かした料理教室
調理協力者とのネットワーク構築
- ★ 目標 | 食文化の理解と地産地消による地域内経済の循環促進
家庭での食を通じた会話や食育の推進
- ★ 展開 | 多様な糸魚川の「おいしい」料理等の情報発信

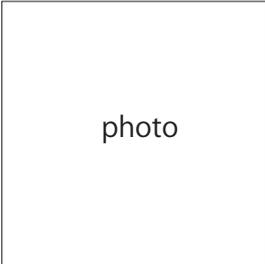


ACTION
3

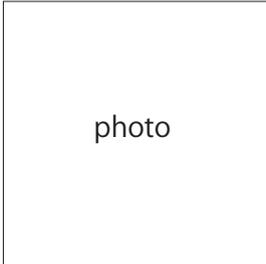


小さなマルシェ（朝市）

市内で取れた米や野菜などの農産物や海産物の干物など、糸魚川産の食材が購入できる小さな朝市を定期開催します。
生産者や提供者の顔が見えることで、愛着や安心感が深まります。気軽に歩いて買い物ができる場を地域住民の方々に提供するとともに、他の地域の方々にも出店者や来場者の立場でまちなかに足を運んでもらうことで、回遊する人が増えていくことを目指します。



生産者・販売者



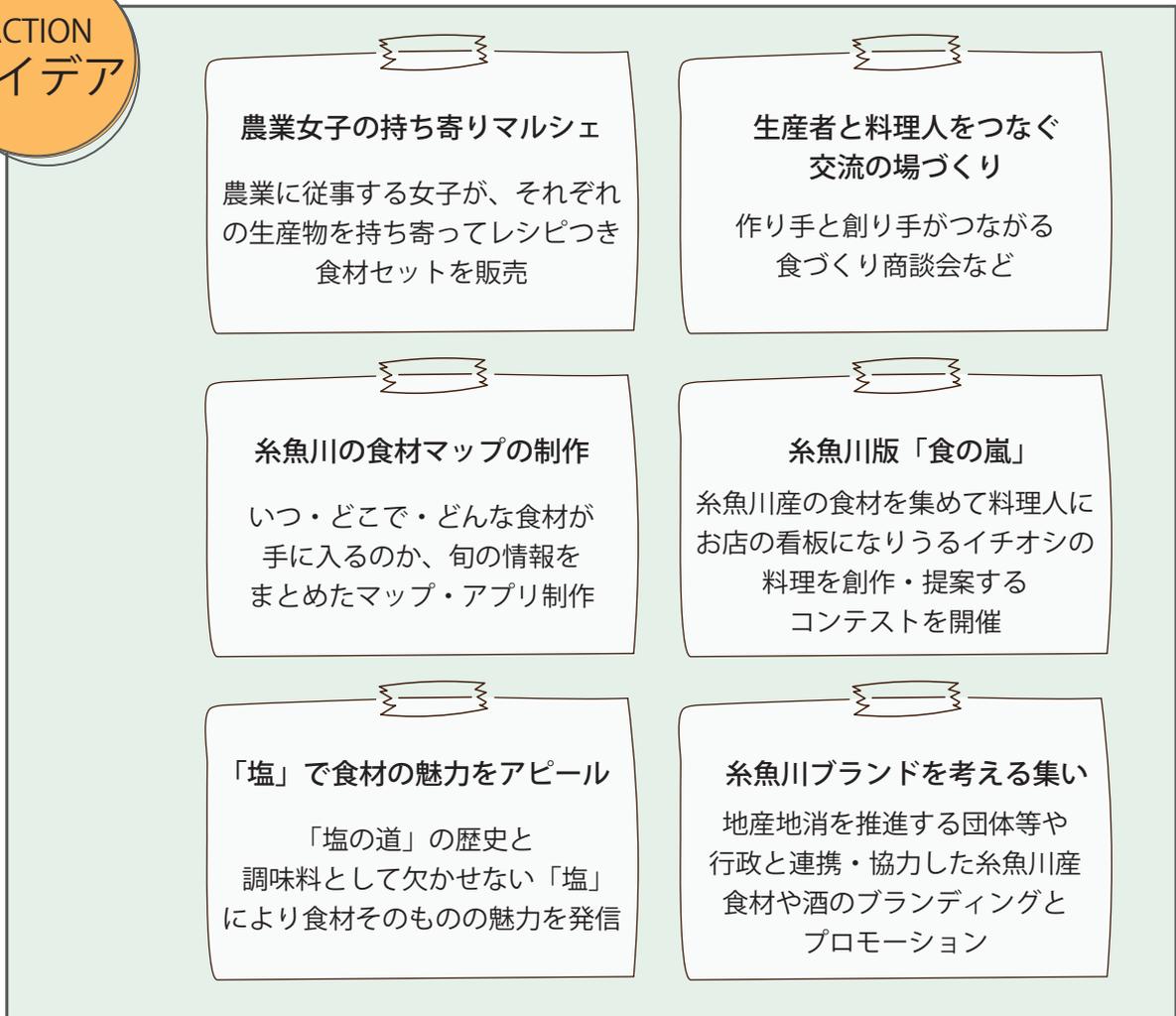
BASE968



- ★ 対象 | 地域住民・商店街・市民
- ★ 内容 | 糸魚川産の野菜・海産物などを販売するマルシェ
新鮮な旬の食材を知る・買う場づくり（新鮮、おいしいの売込）
生産者・販売者と消費者の交流の場づくり
- ★ 目標 | 日常の暮らしの中に地産地消を取り入れるきっかけを作り、地域内経済の循環の促進
駅北を訪れる目的づくりと回遊促進による商店街への効果の波及
- ★ 展開 | 小さな活動や取組が増え、駅北エリアに点在
定期開催を待ち望み、多くの市民が回遊、出店の仕組み

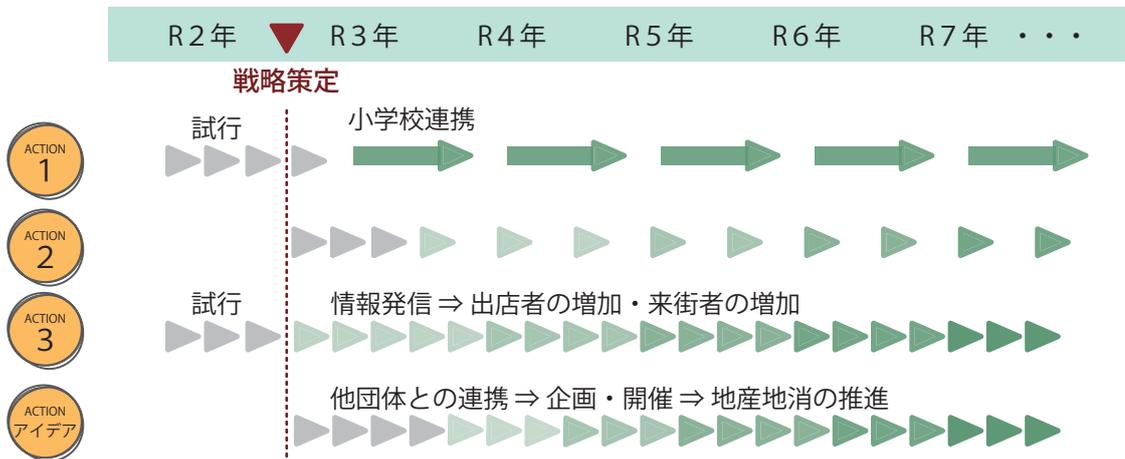


ACTION アイデア



※ACTION アイデアは、今すぐに活動を進めることができなかつたものですが、将来的に今ある活動と連携、発展する可能性のある活動アイデアです。

ACTION の工程



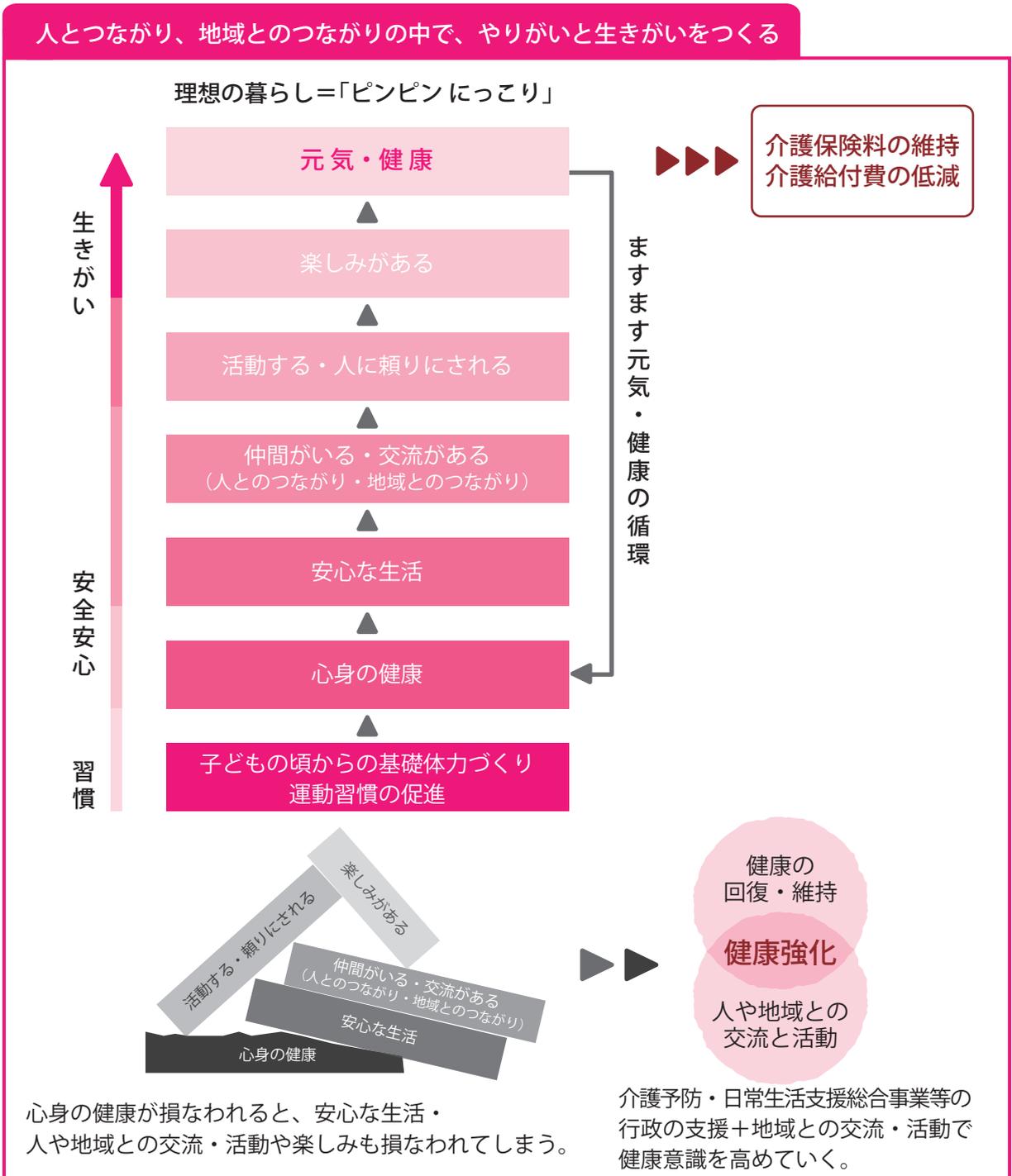


3) いつまでも、ぴんぴんにっこり暮らそう

高齢者がすこやかに、日々の暮らしの質を高めていくために何よりも大切なことは、心と身体が健康であることです。心身が衰えはじめると、活動量も減り、閉じこもりがちになってしまいます。

いつまでもいきいきと暮らしていくために、地域との接点を持ちながら健康づくりができる「身近な通いの場（機会）」を作ります。

この通いの場が歓談の場、見守りの場、学びの場、住民同士の、また多世代の交流が生まれる場となり、生涯を通じて健康に暮らすまちにつながります。





ACTION



まちなか健康運動

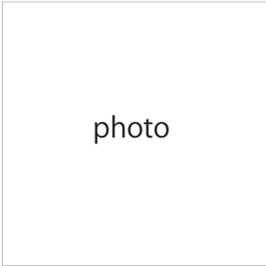
健康でいきいきと暮らしを続けるため、「GEO(ジオ)体操」の普及モデル活動を展開し、併せて、いくつになっても元気な暮らしを維持するための基礎となる心身の健康を保ち、「ピンピンにっこり」暮らす高齢者を増やしていくことを目指します。

継続的に体操することで筋力の衰えを防ぎ、筋力低下等を原因とする介護予防によって、介護保険料等の維持・低減を図ります。

いくつになっても元気な暮らしを続けるには、老いてからではなく、子どもの頃からの運動習慣を意識づけることも大切です。すべての世代が健康なカラダを作り、基礎的な運動能力を養おうとする機運の醸成を図ります。



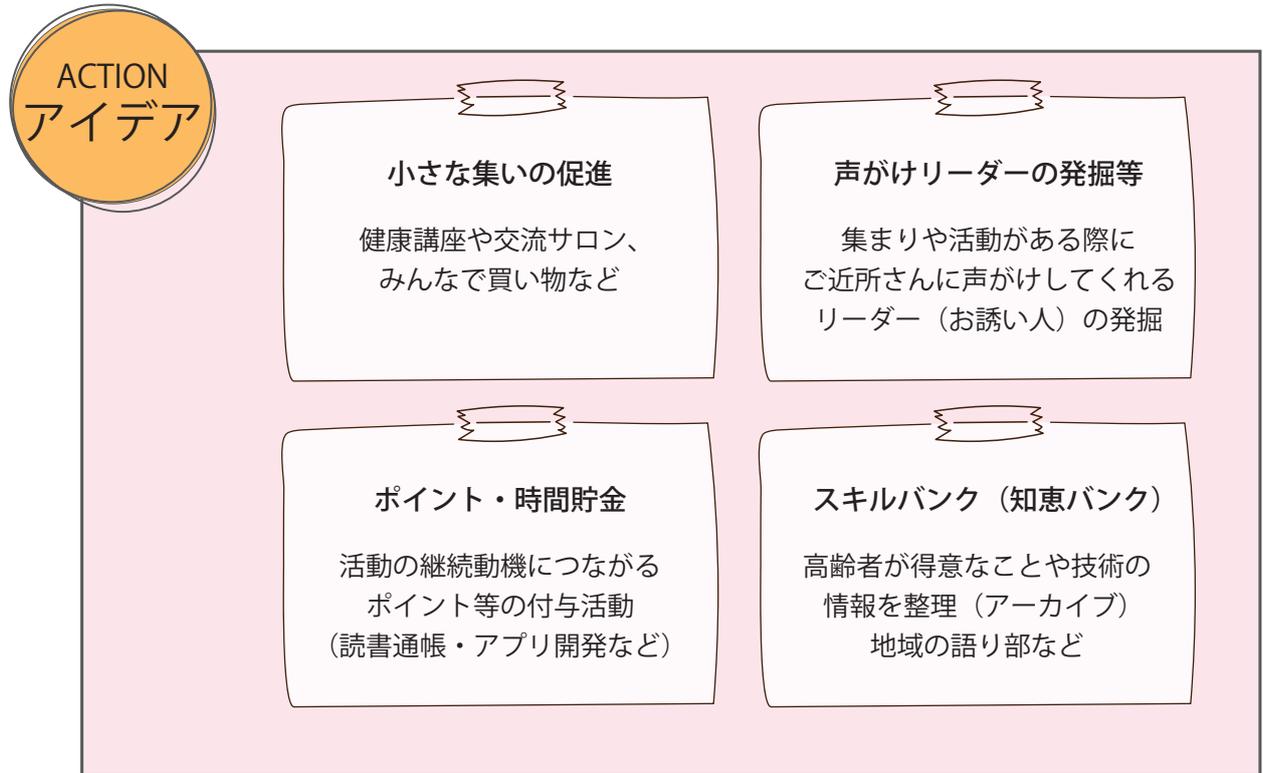
地域包括支援センター



駅北広場キターレ



- ★ 対象 | 地域住民
- ★ 内容 | GEO(ジオ)体操教室の定期開催
- ★ 目標 | 高齢者の体操習慣化を支援することで、心身ともに健やかな暮らし、介護給付費の低減
- ★ 展開 | 運動習慣の意識付けを図り、市内各地区に活動の拡大



※ACTION アイデアは、今すぐに活動を進めることができなかつたもの ですが、将来的に今ある活動と連携、発展する可能性のある活動アイデアです。

ACTION の工程

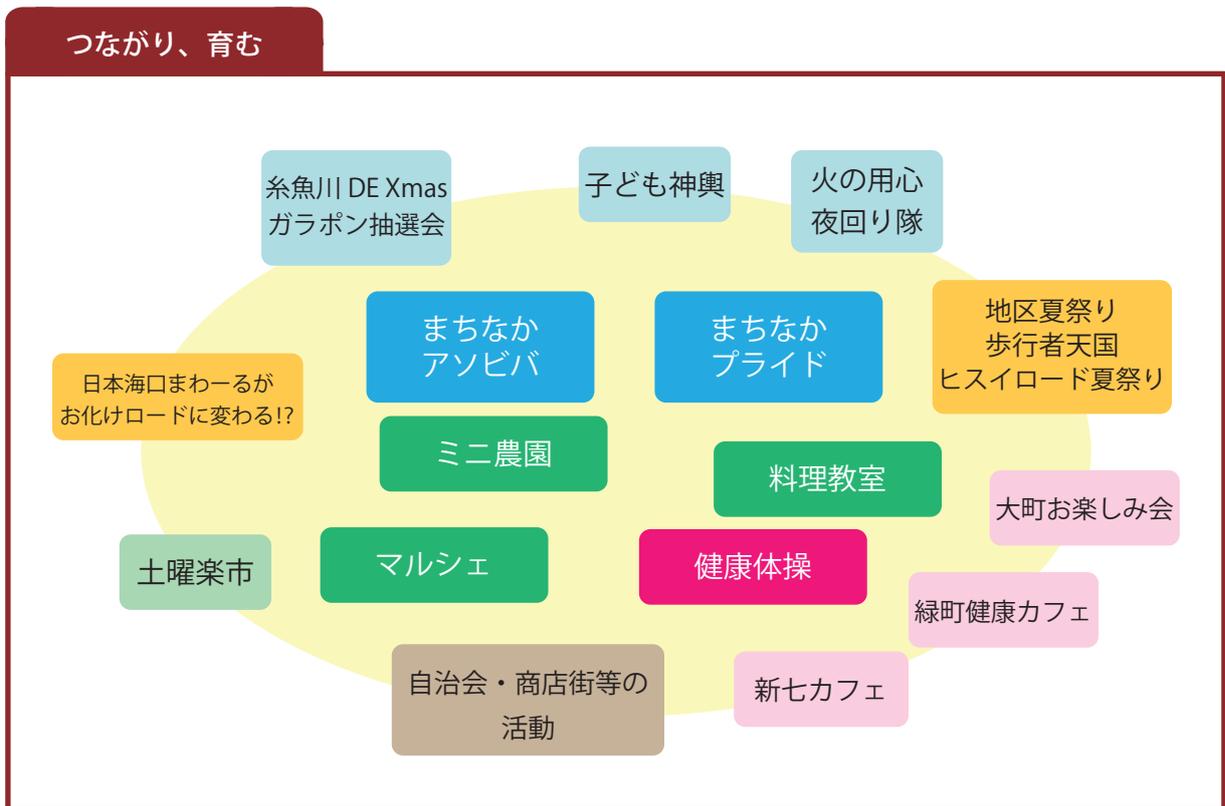




4) 取組の連携とその他の活動とのつながり

多くの市民が心の豊かさや生きがいを得て、人と人との交流や活動参加のきっかけを作っていきます。

また、地域で行われている既存の活動との連携を図り、まちの魅力を高めていきます。





5 目指す姿の実現に向けて

1 まちづくりの展開

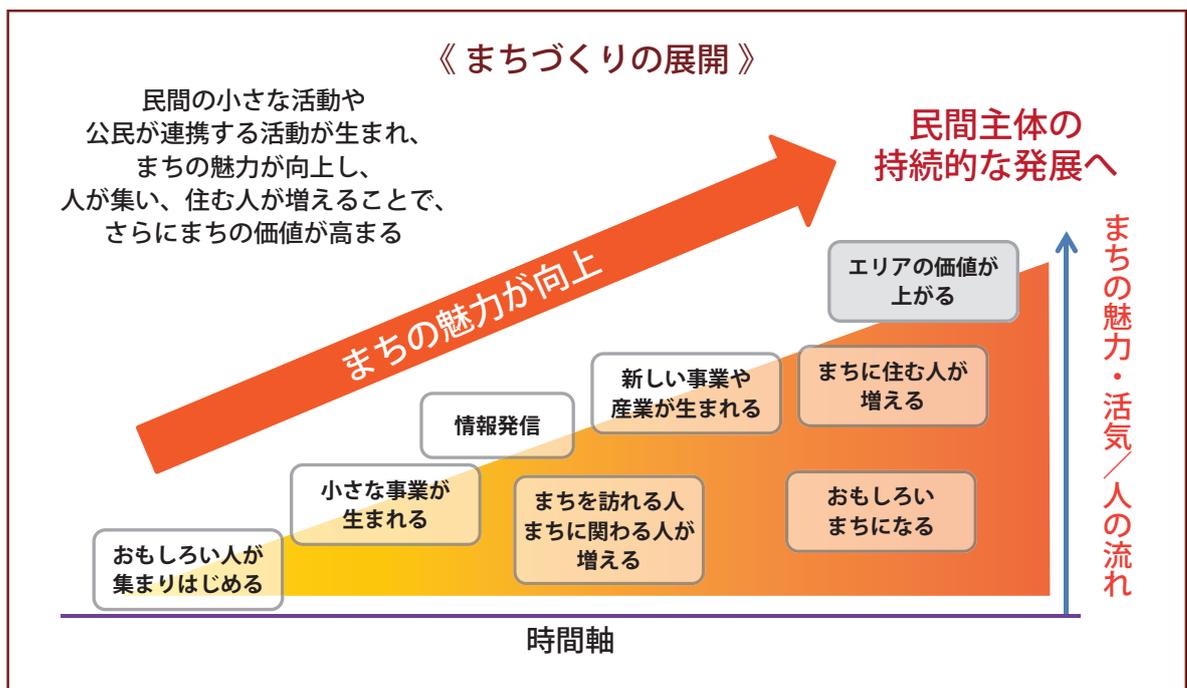
まちづくりの最終的な目的は、駅北地区の価値が上がり、持続的に発展していくまちになることです。

そのためには、市民の皆さんが「やりたかったこと」「やってみたいと思ったこと」「こうなったらいいなと思っていること」を実際にやってみることが大切であり、自分の得意なことや長所を生かして、無理せず楽しく、小さな活動を続けていくことがその第一歩です。

民間の小さな活動が生まれ、活動の展開の中で、小さな事業が生まれることや、まちを訪れる人や関わる人が増えることなどがそれにあたります。

そうして地域の皆さんがいきいきと暮らしている姿の中に、人の心を動かすチカラがあり、やがて「行ってみたい」「働きたい、起業したい」「暮らしたい、子どもを育てたい」という動機につながります。

このように段階的な目標を踏みながら、エリアの価値を上げ、持続的な発展につながる展開を図ります。





2 公民連携によるリノベーションまちづくり

社会情勢や暮らし方の変化、市民ニーズの多様化に対応していくためには、これまでと同じ取組では、都市の経営や運営が困難な状況となっています。これからは、市民や民間団体の活動や事業を地域の課題解決につなげていくという大きな視点に立つ必要があり、まちづくりに対する行政の役割も大きく変わってきています。

本市では、市民自らが主体となって自分たちのまちをつくり、守り、育んでいく、民間のまちづくり活動に対して、より活動しやすい環境を行政が整え、公民連携の取組（リノベーションまちづくり等）を進めます。

■ 公民連携（PPP）における民間と行政の役割



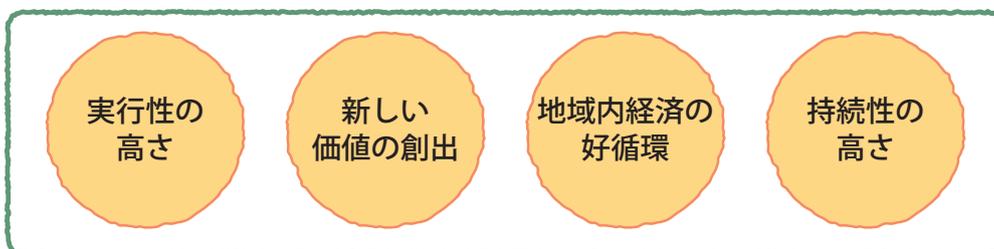
※「公民連携」とは、Public Private Partnership と言われ、「公=Public」と「民=Private」が「連携=Partnership」することによって、課題を解決し、ものごとを達成することです。

○ リノベーションまちづくりとは

リノベーションまちづくりは、単に建物や空間のリフォーム（改修等）が目的ではなく、今あるものを生かし、新しい価値を見出すことによってまちを変える、都市・地域課題の解決に向けた公民連携によるまちづくり手法のひとつです。



リノベーションまちづくりの効果





Point 1 | 地域ならではの資源を生かす

すでにある地域資源を生かすことが第一歩です。見慣れた風景、何気なく交わされる会話、受け継がれてきた味。日々の暮らしの中こそ「地域のお宝」が眠っており、その活用が実行性を高めます。一見価値がないように思えるモノでも、「見立てを変え、探して、編集して、活用する」ことでこれまで気がつかなかった新たな価値が見えてきます。



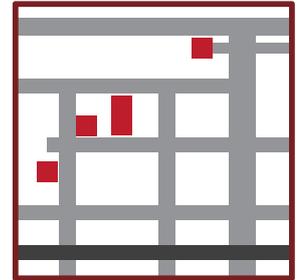


Point 2 | 小さくはじめて大きく育てる –まちづくりのプロセス–

実践と成功という現象が連鎖してくるのが民間によるまちづくりの力でありプロセスです。小さな民間事業が成功するとその影響が周囲に出てきます。

Step 1

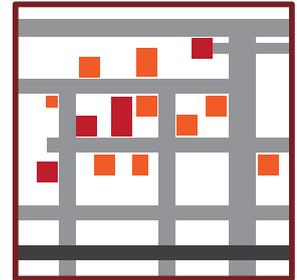
まちの資源を生かし、コンテンツ（活動や事業等）をつくる。



Step 2

エリアに求心力のあるコンテンツができると、マグネット効果（※）が働き、周囲に別のコンテンツが生まれ始める。

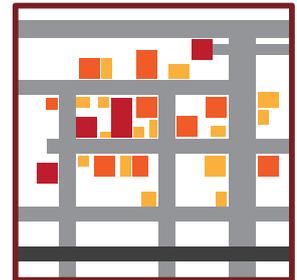
※マグネット効果：核となる魅力的な人やコンテンツ（活動や事業等）に引き寄せられて人等が集まる効果



Step 3

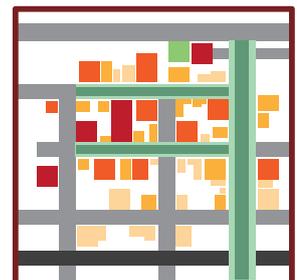
コンテンツがエリアに集積すると、人や経済の動きが活発になり、エリアの価値が上昇する。

- ⇒ 空き家・空き店舗の活用が促進される。
- ⇒ 固定資産価値が上昇し、税金が増える。



Step 4

地区に影響力をもつ公共空間のしつらえや使い方を変えることで、まちの変化が加速する。



地域内経済の
好循環



Point 3 | 活動の持続性

活動推進に重要なことは、活動する当事者がやりがいをもち、活動が「持続的」であることです。そのためには、参加者や来訪者の満足度を高めることにのみ注力せず、運営者全員の満足度を高める視点を持って進めることにより、応援者も増え、持続性も高まります。

	イベント	持続的な活動
特徴	非日常・一時的	日常的・持続的
目的・目標	集客・盛り上がり	生活様式の実現
主体	公共性の高い組織 (実行委員会など)	民間主体
資金	公的支援(補助金)	民間「事業」中心
評価軸	来場者の満足度	運営体制・仕組み 持続性・事業性





3 まちなか大家族の実現に向けて

駅北地区が目指す姿である「つながり、育み、豊かに暮らす一めざせ、まちなか大家族」を実現していくためには、公民連携によるリノベーションまちづくりの考え方にに基づき、駅北地区の地域資源を活用した「子育て」「地産地消」「高齢者元気」の活動を小さくても一つひとつ重ねていくことが大切です。

駅北地区には、大火からの復興によって新しく生まれた駅北復興住宅や駅北広場、市民公園など既に活用が始まっている公共空間があり、戦略における活動のフィールドとして期待できます。



駅北広場キターレ



復興市営住宅



市民公園

1) にぎわいの拠点施設の方向性

本戦略における活動や既存施設との連携や機能分担を考慮し、復興まちづくり計画における「にぎわいの拠点施設」は、リノベーションまちづくりの考えに基づき次の3つの視点をもとに、整備に向け検討します。

3つの視点

- ① 駅北地区の状況等を踏まえたまちの機能強化
- ② 駅北まちづくり戦略における実践活動の推進と連携の促進
- ③ 市内の行政課題への対応

複数分散型のまちづくり

駅北まちづくり戦略の実践活動と他施設機能の連携により、まちの強化を図る複数分散型で駅北地区での暮らしの向上と交流を目指します。また、駅北地区で市が保有している土地を有効に活用することで、事業の実行性を高めます。

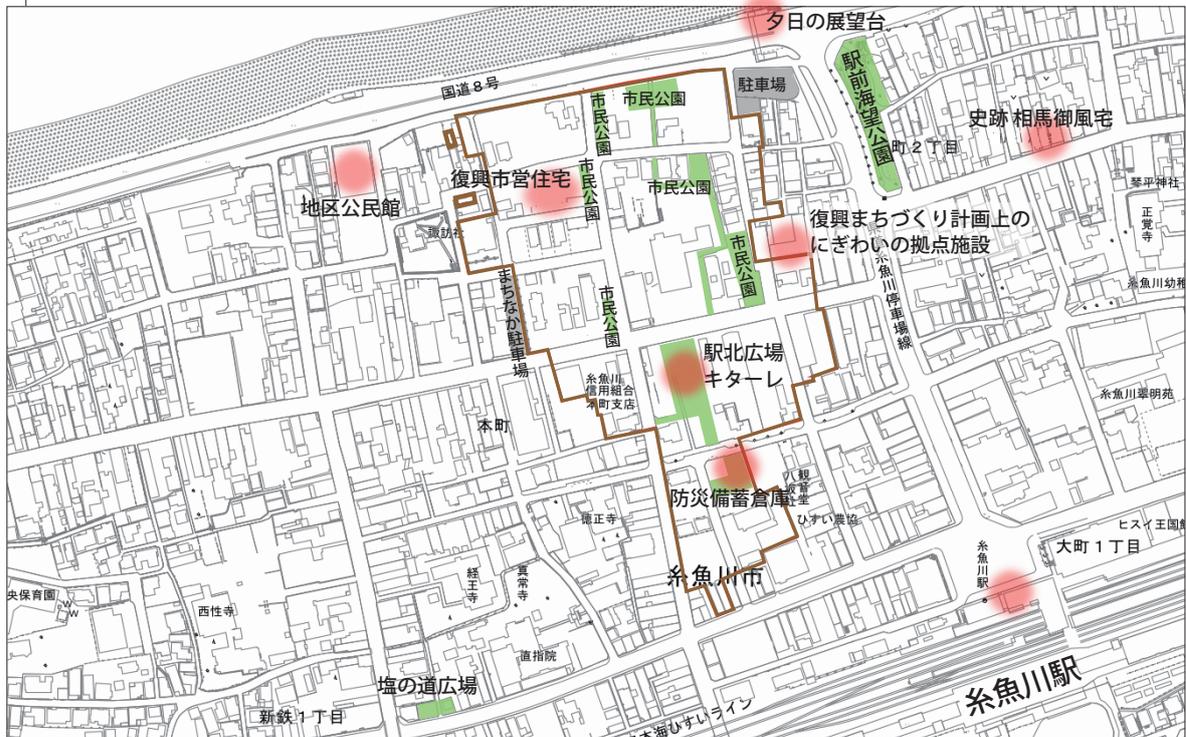
子育て支援を中心とした機能

戦略における実践活動について、「乳幼児向け屋内の遊び場」「専門的な子育て相談の場」「高齢者の活躍の場」の充実により、さらに活動の推進と連携の促進が図られると想定しています。また、保護者間交流や屋内の遊び場は「第2期子ども子育て支援事業計画」や「保護者アンケート」で要望があり、新たな市民サービスとしての対応が期待されています。これらの場の整備により、子育て支援を中心とした活動を推進しながら、子育て世代だけでなく多世代の交流を図ります。

詳細は、検討委員会を設置して、令和3年度以降に検討していきます。

2) 駅北まちづくりの活動フィールドの展開

駅北まちづくりにおける実践活動や既存施設との連携等によって、新たな人の動きが生まれ、まちに変化が現れます。これらの展開を見越し、活動フィールドの充実を図ります。



施設名	機能
駅北広場キターレ	市民交流・チャレンジ・インキュベーション・防災
駅北復興住宅	居住・地域コミュニティ
糸魚川地区公民館	生涯学習・社会教育
市民公園	安らぎ・防火・地域コミュニティ



4 推進体制

駅北まちづくり戦略を確実に推進するため、これまで策定会議として位置付けてきた「駅北まちづくり会議」を再編成し、令和3年度から活動の実践により重きを置いた体制での運用を図ります。

■ 駅北まちづくり会議（新）

《 構成団体等 》

経済関係団体、第一次産業関係団体、金融機関、駅北地区の自治会の代表、
駅北まちづくり実践団体、その他市長が必要と認める団体

《 会議頻度 》

年1、2回程度

《 任 期 》

2年（令和3年度から令和4年度まで）

《 所掌事務 》

駅北まちづくり戦略の推進に関すること

参考資料

- | | | |
|---|---------------------|-----|
| 1 | 駅北まちづくりの経過 | 参 1 |
| 2 | 駅北まちづくり会議設置要綱 | 参 4 |
| 3 | 駅北まちづくり会議等委員名簿 | 参 7 |
| 4 | 駅北まちづくり会議 実践会議 講演概要 | 参 9 |



糸魚川市 産業部 復興推進課

編集発行 令和2年 月策定

〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮一丁目2番5号

電話番号：025-552-1511（代表） FAX 番号：025-552-7372

E-Mail：fukkou@city.itoigawa.lg.jp

URL：http://www.city.itoigawa.lg.jp

駅北地区が目指す姿

○駅北まちづくり戦略とは

復興の向こうを見据えたまちづくりに向けて、駅北地区の地域資源を改めて見つめなおし、**人と人とのつながり、人とまちとのつながりを再生していく**ための未来像を描き、その実現のための実践活動を示したもの。

○第5回実戦会議で提案された目指す姿

暮らし	くらしのCo-Jo	外 に 向 け た メ ッ セ ー ジ	like a dreamland (夢の国)	つ な が る	つながる糸魚川、ひろがる未来 (みえる みらい) (点と点がつながる、面と面もつながる、 人と人がつながる、大人と子どもがつな がる、企業と人がつながる)
	くらしのシェアモール		きたくなる (北と来たくなる)		つながる豊かな暮らし
	私らしい暮らしができるまち		糸魚川の魅力がまるわかりできる 大きな 窓口 当事者意識をもつ (自分ごとだと思ふ) 人が増えていく エリア		こころ・つなぐ・まちなか ココロ・ツナグ・マチナカ
	暮らしにコミット糸魚川 (コミット=目標に対して責任を持ち、 深く関わる 約束・貢献・完遂・責任・ 尽力・向き合う)		糸魚川らしさがぎゅっとつまった 玄関口		つづく つながる つたえあう
	向上! QOL ² city 糸魚川 (クオリティ オブ ライフ Life ラッ キー Lucky ローカル Local ラスト Last ロケーション Location ラブ Love…)		ありがとうと出逢うまち～楽縁～ *論語「子曰く、これを知る者は、これ を好む者に如かず。これを好む者は、こ れを楽しむ者に如かず」 卒なんて (おまん よ～きたねえ 糸魚川なんて なんてなんて…)		A place for the future (未来への場 所)
	郷土愛 暮らし豊かに 多くが集う				
	～老いも若きも助け合い支え合い～まちなか大家族				
	しぜんと 幸せに暮らせる 街、糸魚川				

キーワード

豊かに暮らす

特別な場所

つながる

駅北地区が目指す姿

○駅北地区が目指す姿

キーワード

豊かに暮らす

つながる

特別な場所

キーワードを紡いだまちの姿

人と人、人とまちがつながり、そのつながりを育むことで、豊かに暮らす市民（大家族）にとって、家のように居心地の良い特別な場所

『つながり、育み、豊かに暮らす』
- めざせ、まちなか大家族 -



(参考) 駅北大火3年事業イメージイラスト

○取組の方向性

つながり、育み、豊かに暮らす環境をつくるため、3つのテーマ（子育て、地産地消、高齢者元気）に沿った活動を進め、駅北地区の魅力を高めていきます。

